

未知なる技芸を育む

“Terrace”

芸術における創造は、未知なる技芸(Ars)を生み出し、歴史・文化を継承していく行為です。私たちは新しいキャンパスをつくるプロセスを、様々な人々の想像力を導き入れ、京都が世界に向けてオルタナティブを発信する機会と考えます。私たちが提案する3つの位相(Box/Terra/Interface)によるキャンパス設計のフレームは、多くの人々の合流を喚起し、未だかつてない「文化の火床」を生み出すでしょう。そしてTerraceとしての芸術大学は、人と人、人と自然との未知なる関係を発見するこのプロセスにおいてすでにはじまっているのです。



01 21世紀の京都に条里と自然のオルタナティブを創出する。

坪庭、借景、懸造り、高瀬川、御土居など、長い歴史の中で京都は条里と自然との対話において、いくつもの力強い関係を生み出してきました。新しい芸術大学のキャンパスに鴨川、高瀬川から自然を立体的に引き込み、浮き隔たれた条里と自然の多層的な場を生み出し、21世紀の京都に人と自然の新しい関係を創出します。

02 地域の風景を癒す十字路

新しい高瀬川がつくる地域の自然軸と芸術大学が更新する京都の文化軸とが交わる十字路において、地域とキャンパスが結ばれた新しい景観を創り出します。

03 自然と都市の関係を問い直す場を作る:B-T-Iシステム

提案を実現するための基本的な枠組みとして、3人の建築家がそれぞれに別々の建築を担当するのではなく、全体を都市と自然と人に対応する3つの位相(Box, Terra, Interface)に分けてそれぞれに責任を持つB-T-Iシステムを提案します。そこにコミュニケーションを得意とするオーガナイザーが加わり、全体の統合性を保ちながらも、常に3つの位相が創造的な対話を通して各所に最適な空間を生み出します。

実績

赤松佳珠子
アクティビティを設計するというアプローチにより、イキイキとした空間づくりを目指しています。学校建築の豊富な実績、複合公共建築の多様な関係主体との対話の経験を活かします。

平田晃久
生きている世界とからまり合う建築の理論と実践に取り組みます。太田市美術館・図書館では市民と協働した設計プロセスによって閑散とした駅前に人の流れを取り戻す拠点をつくりました

長坂常
家具は家具らしく、建築は建築らしくという気持ちから家具から建築を多様なジャンルで活動します。京都芸大移転プロジェクトの一環である、still moving展の会場構成も担当した。

柳橋修
模型を使ったワークショップなど地域と一緒に活動の数多く行ってきました。

B-T-Iシステムは次の3つの位相で、設計時の対話と将来的な変化の双方に対する柔軟さを持ちます。

+フレキシブルなBox配置
分棟Boxは様々な配置可能です。設計時の自由度があるだけでなく、将来的なBoxの増築によっても全体のアイデンティティが失われません。

+間仕切×Terraの更新性
Box内の非耐力壁の配置は自由に変更可能です。学科再編にあわせてTerraの配置も変更可能です。

+Interfaceの可変性
可変的システムが時事刻々と変化する活動を可能にします。特にArs-Grottaが持つ余白との組み合わせによって高い流動性が担保されます。

Terra
Terraは時に樹木の丘、時に鉄骨のテラス、時にBoxを侵食する緑の流れとなる大地の変容体です。それは、Boxとからみ合い、芸大の様々な場所とまちをひとつに縫い合わせます

Box
8.1mグリッドで立ち上がる14棟のコンクリートボックス。各々の場所で最適に建ち、可変性に富んだ壁面構成が可能な堅牢な空間により高度な研究教育機能を支えます。

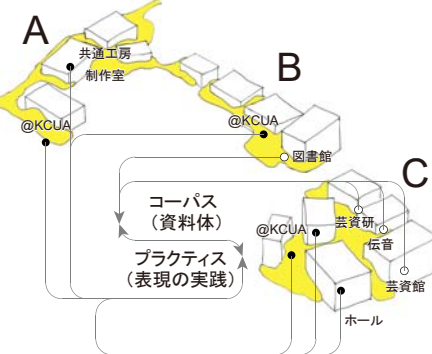
Interface
建築と自由なアクティビティの接点であり、空間に拡張性を与えます。移動可能な家具とマイクロストラクチャシステムにより更新可能性を担保します。



分棟の間に設えられたTerraの連なりを介して街に連続する大学の活動



04 Ars-Grotta = コーパス(資料体) とプラクティス(表現の実践)との相互作用により「つくる」を喚起する「新機構」



B-T-システムによって生み出される各施設をリゾーム状につなぎ合わせる大きく細長い空間＝Ars-Grottaはアーカイヴと表現の実践が相互作用を引き起こす場であり、交流と発信、展示・制作活動が交錯する創造的な社会実験のテラス=火床として、キャンパス全体の活力を支えます。

Boxの隙隙を縫うように広がるTerra。その下層にArs-Grottaの中心となる大きく細長い空間が広がります。この空間そのものがコアパス(資料体)であり、スタジオでもあり書斎でもあるステュディオ・オーロとなるような可塑的な空間を実現します。

コアパス(資料体)と表現の幸福な衝突によって、音楽ホールやギャラリーをはじめ、各施設の連携がもたらされ「つくる」のあり方を日々更新できる新キャンパスの教育研究基盤を創出します。Ars-Grottaの空間と組織は、大学の皆さんと共に時代に合わせて柔軟に更新・成長させていくことができます。Boxに組み込まれる各組織の実務機能を地上階に集め、水平連携が取りやすく、将来にわたって運営組織を柔軟に機能させることに配慮します。

05 可塑的な<がらんどろ>に生命を与えるInterface

Ars-Grottalは、A,B,Cそれぞれの街区の条件や施設の配置に応じてそれぞれ制作・知・交流を主題とし、柔軟に変化をすることができる可塑的なくがらんどう>です。Interfaceがこの空間に最大限の自由度を与えます。

Interface の仕組み

+移動可能な家具

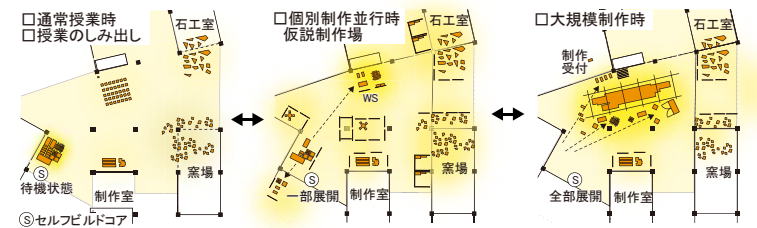
プログラムにとらわれず、棚や可動壁で、柔軟に空間を使えるようにするシステム。
可動壁やリフター、フォークリフトを使った設え。棚や、単管などが取り付く凸、動かせる
緑によって場を作ります。



Ars-Grottaのプログラム

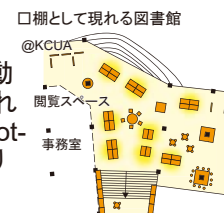
A地区:制作のGrotta

クレーンなどの機械を内包するボックスとボックスから溢れる制作の分泌物や、作業をおおらかに受け止める半屋外的なグロッタと鴨川の土手空間。セルフビルドコアが配置され、鴨川の自然に近いこのArs-Grottaは作ることや考える事を様々な側面から強化するおおらかな場所です。



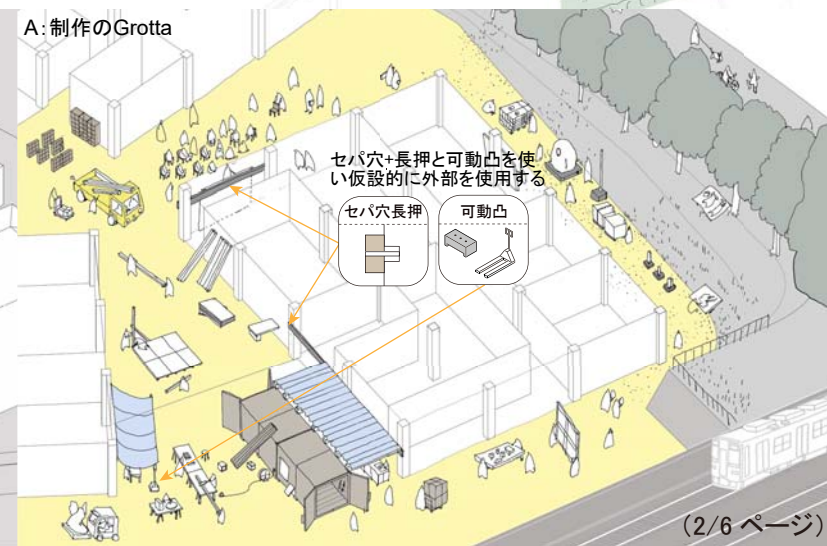
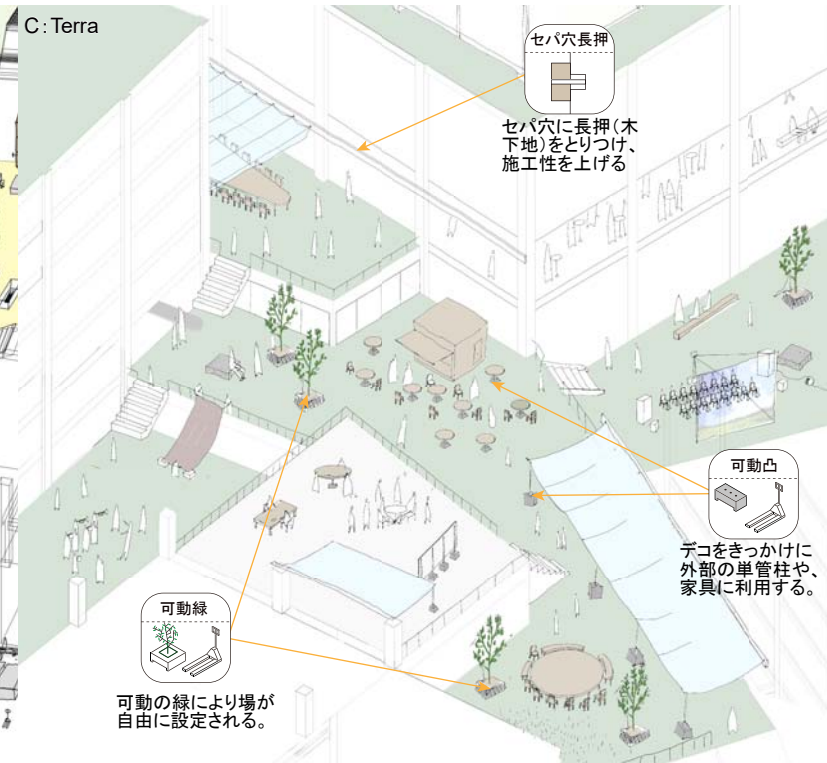
B地区: 知のGrotta

部屋としての図書館ではなく、可動棚があるところが図書館として現れて場が作られます。B地区Ars-Grotta全体に本棚や展示などが混ざり合い様々な場所が生まれます。



C地区: 交流のGrotta

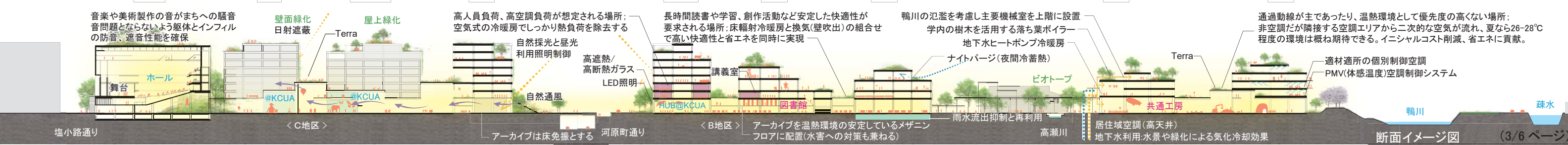
美術と音楽、コーパス、表現など様々な交流の起きるC地区。ひとつつながりのがらんどうの中にもカフェ、食堂エリア、ギャラリーエリア、コーパスエリアに緩やかにゾーニングされます。





06 風と光、自然を地域に呼び込む分棟形式

南側からの気流を崇仁地区に流し、光を呼び込む分棟配置のBox群は、それぞれの立地場所に応じた条件に沿うように建ち、崇仁地区の環境品質を守ります。





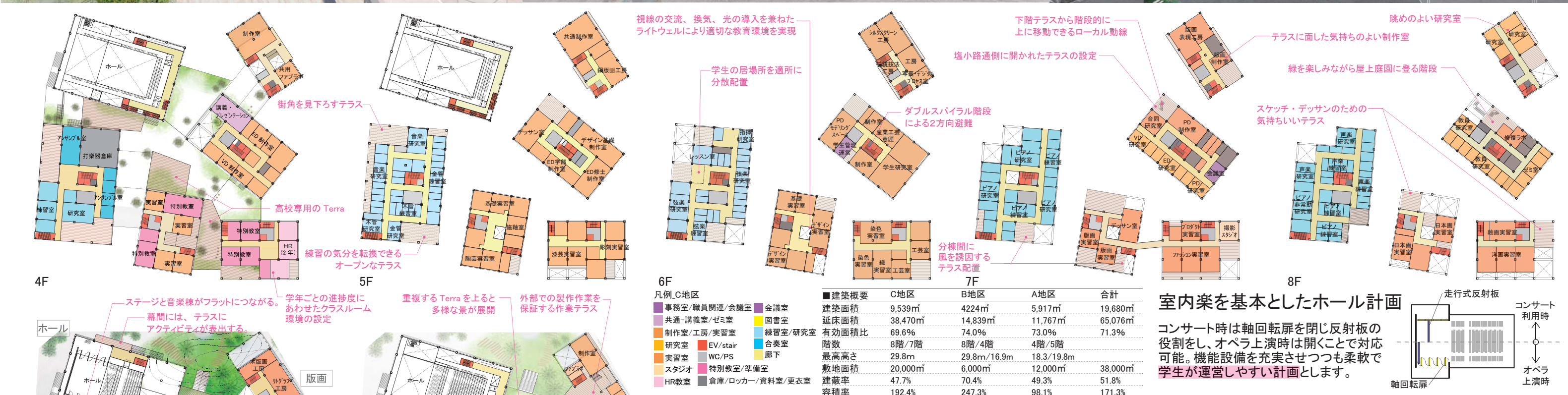
高校と大学の活動が出会うB地区に開いたTerra



交流のグロッタにおける修復ラボとコーパスの展開



可動壁により完全暗転が保証される多機能なスタジオ



07 国際文化観光都市・京都における芸術大学から世界へ発信

浮遊するホール、通りに顔を出すTerra、カフェテリアを内包するArs-Grotta、交差点に大きく開いたギャラリー@KCUAが、国際文化観光都市・京都から世界への発信と交流を担います。芸術大学開設以来の理念を現代の京都に具現化します。



世界への発信を担うホールや@KCUAはArs-GrottaやTerraと有機的に連関
C地区断面 Scale 1/300 (4/6 ページ)



高瀬川に面した着想の場としての知のグロッタ



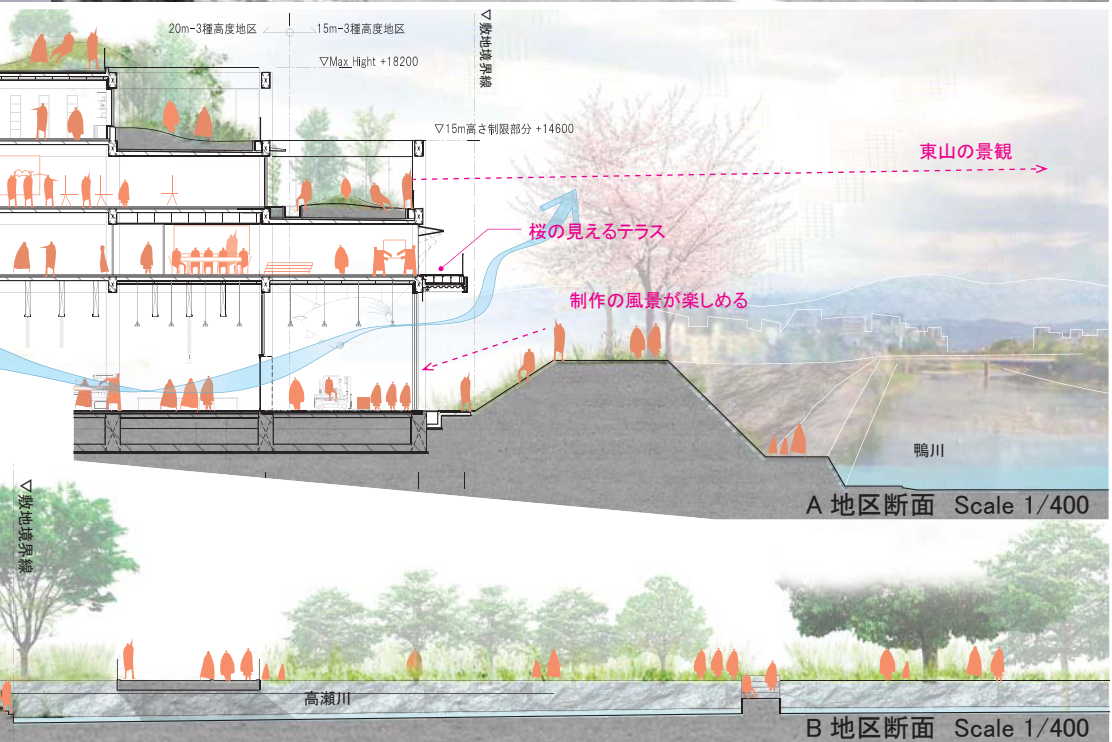
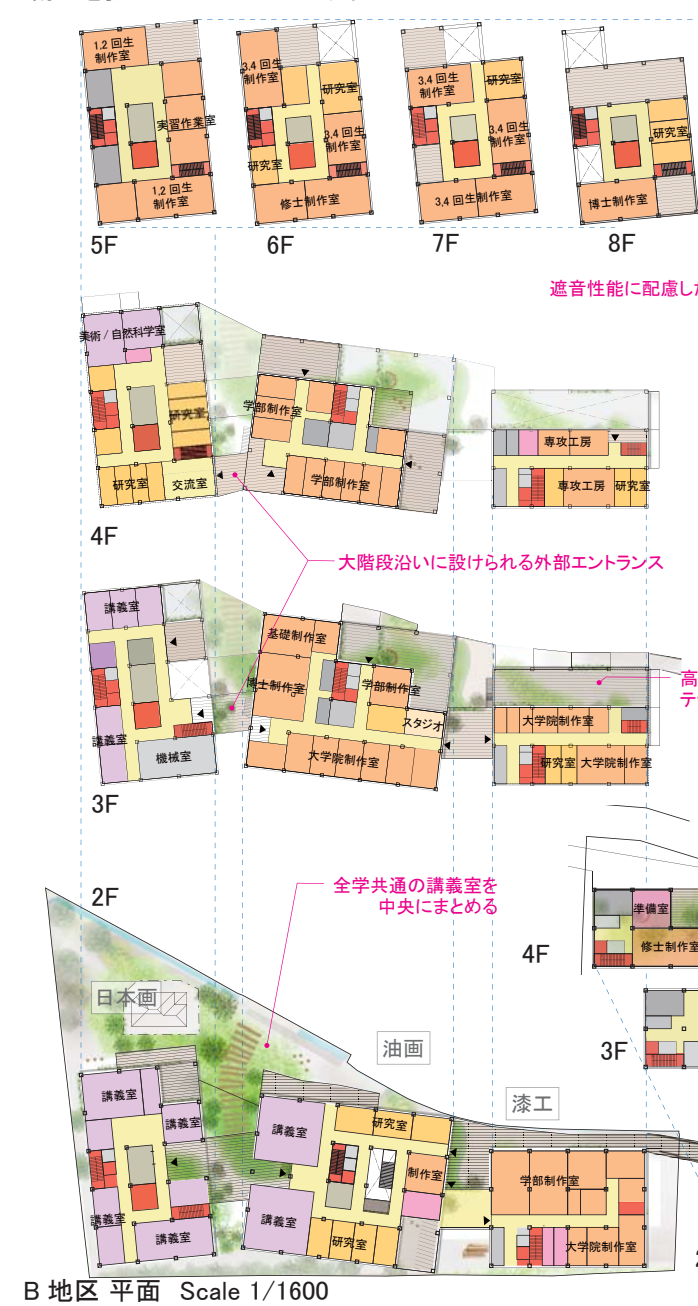
鴨川の堤防際に展開する制作のグロッタ



アート活動の発表の場としての@KCUA

08 コーパス（資料体）に触れ、プラクティス（表現の実践）に没頭できる可塑的な空間

高瀬川の流れに沿って広がるArs-Grotta〈知のグロッタ〉が鴨川方向へ伸びた先に、多様な制作行為をおおらかに受け止める場く制作のグロッタ〉が広がります。セルフビルドコアが新たなオルタナティブの創造を強力にサポートします。



受付番号: _____

分棟形式による安心・安全な計画

段階的にフレキシブルに

運用可能なセキュリティ計画

セキュリティを段階的に設定することで、時と場合に応じて、地域との適度な隔たりと開かれを可能にするまちなかキャンパスを実現します。

合理的な避難計画と地域防災としてのまちなかキャンパス

Box内の2方向避難で法的な避難経路を確保するとともに、Terraを屋外避難動線としても利用することで、避難の集中を防ぎます。また、川が氾濫した場合は、地域の人々がTerraに避難することで地域の避難場所としても有効です。

BOX外壁が第1セキュリティ

セキュリティレベル2.3はTerra接地面レベル以上に配置

アルスグロッタ

アルスグロッタ内は平面的に段階的なセキュリティ(P.3参照)

旧宗仁小学校体育館は、浸水レベルになるため、Terraが地域防災として有効

火災、地震時

浸水時

浸水レベル

火災、地震時

第1工程 2021.7

第3工程 2022.1

スクリーン数試算

スクリーン数試算

地組ヤードを確保し、施工合理化を図ります。

Boxを段階的に建てることで、工事建物に隣接する**広く整形な工事ヤード**を確保します。それによるサイト内PC製作など施工方法の選択枝や可能性が広がり、**コスト・工期の削減**にも寄与します。

より予算内で価値を上げる

空間の質と面積のプランニングにより予算内に納める

目標予算（約270億円）を街区／棟毎分配 科目ごとの予算の中でベスト管理

コスト削減効果の初期段階からチェック

VOLUME CHECK BUDGET CHECK

COST REVIEW

随時コストチェック/モニタリングを徹底

COST REVIEW

COST CHECK 1

COST REVIEW

COST CHECK 2

COST REVIEW

COST CHECK 3

調整

精度の高い積算結果をB・C地区にフィードバック

H31年度新単価が開示されてから金入れスタート

日本初のWTO発注の中部国際空港の実績

CASBEE 1 申請は工21日前

発注・調達

① 各棟別・階別・用途別・設備別・設備の配置
 ② 各棟・階・用途・設備の予算配分

③ 各棟・階・用途・設備の予算配分
 ④ 各棟・階・用途・設備の予算配分

ex.1_B 街区外装 予算枠 8 億 外壁面積 0.7㎡
 外壁 既装サッシ キーボードホルダー
 0.7 1.0 1.6
 ex.2_B 街区外装 予算枠 5 億 施工床 0.7㎡
 コンクリート仕上げ 緑化 デッキ仕上げ 屋根 (非歩行)
 1.0 1.2 1.2 0.4
 ex.3_B 街区設備工事 予算枠 8 億 延床 1 ㎡
 空調 空調 (CH 高) 防音 / 空調 非空調
 1.0 1.1 1.2 0.6

科目別に予算枠を設定
 a 設備 ** 億 e 内部仕上 ** 億
 b 土工 ** 億 f 電気 ** 億
 c 躯体 ** 億 g 設備 ** 億
 d 外部仕上げ ** 億 h 予備費 ** 億

